



土合小学校 学校だより

くすのき



学校のシンボル
くすの木

令和7年度 第6号

令和7年9月30日

さいたま市立土合小学校

教頭 葛西 耕輔

— 子どもたちの可能性を引き出す —

秋は「実りの季節」とよく言われます。田畑では稲穂が黄金色に輝き、果樹園ではリンゴや柿が色づき始めます。自然界の営みが1年の成果を結ぶこの時期、子どもたちの学びにもまた、ひとつの「実り」が見えてくるように感じます。

2学期は、学習面も生活面もぐっと深まる時期です。春からの積み重ねが形になり、子どもたちの言葉や行動に「考える力」や「伝える力」が育ってきているのを感じます。例えば、5年生では発言に根拠が添えられるようになったり、3年生では友だちとの話し合いで相手の意見を受け止めながら自分の考えを広げたりする姿が見られます。また、1年生では、問題への回答が単語のみではなく、「答えは〇〇です。」と文章として回答する姿が多くみられます。これは、単なる知識の習得ではなく、「学びの質」が高まっている証です。

10月には運動会や6年生の修学旅行、また2，3年生の校外学習など、体験を通して学ぶ機会が多くあります。運動会では、勝敗を超えた協力や挑戦の価値を知り、修学旅行や校外学習では、教室を離れて地域や自然、また歴史に触れることで学びの幅が広がります。こうした行事は、子どもたちにとって「生きた学び」の場であり、教科書には載っていない大切なことを教えてくれます。

教育の語源は、ラテン語の「educare（引き出す）」に由来します。つまり、子どもたちの中にある可能性や力を引き出すことが教育の本質です。私たち教職員は、日々の関わりの中で子どもたちの「まだ見ぬ力」に光を当てることを目指しています。そして、そのためには家庭との連携が欠かせません。保護者の皆様の温かなまなざしと支えが、子どもたちの成長を何よりも後押ししてくれています。

季節の変わり目は、体調を崩しやすい時期でもあります。どうぞ御家庭でも、健康管理に御留意いただきながら、子どもたちが元気に学校生活を送ることができるよう御支援御協力をお願いいたします。